

マレーシア「盆踊り大会で被災地の復興 PR」

シンガポール事務所

東日本大震災発生以降、各国から日本に対し暖かい支援が寄せられた一方で、ニュース映像等からの影響で、暗いイメージを持つ人は少なくない。そこで当事務所では、地域支援の一環として、マレーシアで開催された大規模な盆踊り大会に、マレーシアからの被災地支援に謝意を表すパネルと寄せ書きボードを設置するとともに、被災地域の支部より提供を受けた写真等を紹介し、復興に向けたPRを行った。



熱気溢れる盆踊り会場



展示パネルの様子



来場者からの寄せ書き

今年 35 回目の開催となったこの盆踊り大会は、クアラルンプール日本人会、クアラルンプール日本人学校、在マレーシア日本国大使館の共催により、2011 年 7 月 16 日（土）、マレーシア・スランゴール州シャーアラム市のスポーツ競技場で行われ、およそ 35,000 人が訪れた。

今回の大会では、副題として「ありがとうマレーシア」というメッセージが掲げられ、パンフレットやスタッフTシャツには東日本大震災に対する支援へのお礼の言葉が記載されていた。

■ 会場の様子

17時の開場後、すぐに多くの人が押し寄せ、敷物を持参して明るいうちから場所を取り、屋台で好きな食べ物を買ひ、あとはゆっくり祭りを見たり、踊りに参加したりしていた。

会場の中央にはメインステージとなる櫓が設置され、東京音頭、大東京音頭、花笠音頭、おひさま音頭（クアラルンプール日本人学校オリジナルソング）が披露された。櫓の上で踊るクアラルンプール日本人学校と当地の中学校の生徒らをお手本として、来場者は見よう見まねで日本の郷土舞踊を楽しんだほか、サブステージでは、青森の津軽三味線の演奏やマレーダンスが披露されるなど、日本だけではなく当地の文化も楽しめる内容であった。

■ 展示パネル概要

「ありがとう、マレーシア」という今大会のコンセプトに合わせ、来場者に感謝を伝えるメッセージパネルと寄せ書きボード、そして、岩手県、宮城県、茨城県、仙台市の各支部より御提供していただいた、各地の「元気」を伝える写真等のパネルを作成し展示した。パネル

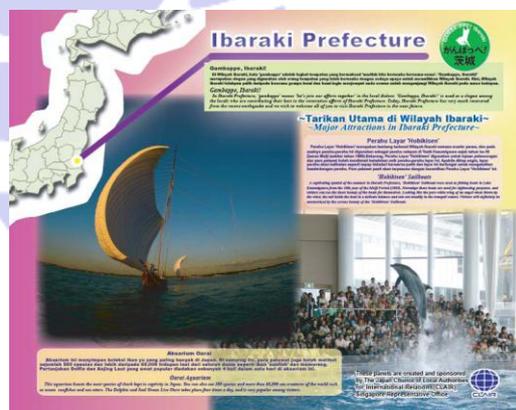
は、盆踊りの櫓と屋台スペースの間の見やすい場所に設置され、多くの来場者が関心を寄せ、展示の前で足を止めていた。パネルには職員が常駐し、適宜来場者に対して説明を行った。パネルを見た来場者からは、以下のような感想が挙げられた。

- 「震災のニュース報道で地域の名前を耳にすることはあっても、各地域にどのようなものがあるのかということほとんど知らないなので、貴重な機会だと思う。」(高校生・男性)
- 「マレーシアでも、近隣のスマトラ島(インドネシア)沖で地震があったため、津波については多くの人に関心を持っている。一日も早く、日常の生活を取り戻すことを願っている。」(50代・男性)
- 「10年ほど前に仙台市に住んでいたことがあり、とても懐かしく感じた。」(40代・女性)
- 「この盆踊り大会には毎年来ているが、日本には盆踊りだけではなく、地域毎に様々な祭りがあり、興味深い。」(20代・男性)

また、用意していた寄せ書きボードには、若い世代を中心として、最後には読み取れないほどの書き込みがあり、「Gambatte Japan」、「我爱你 Japan」、「Japan is Best」など、日本を応援するメッセージが並んだ。来場者の中には、マンガやアニメがきっかけで日本語を勉強しているという若者もいて、職員らに簡単な日本語で話しかけてくれるという場面もあった。



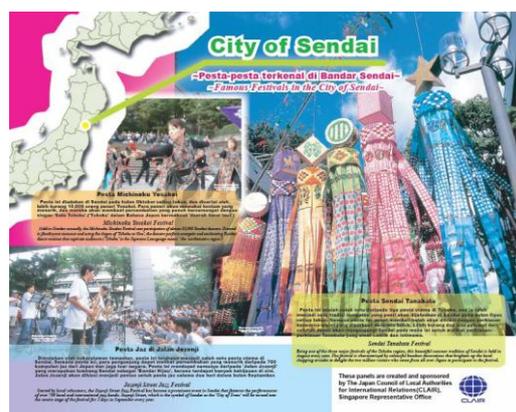
岩手県



茨城県



宮城県



仙台市

■ 終わりに

会場に詰め掛けた来場者は、そのほとんどが現地の人々であり、熱気溢れるこの大会でのパネル展示を通じて、日本の地域の多様な魅力をマレーシアに発信してきたものとする。また、在マレーシアの日系機関を中心とした長年の努力によるこの催事が、いまやマレーシアの「夏」の風物詩となっていると感じた。

シンガポール事務所では、今後とも被災地の復興に関する前向きな姿を海外で積極的に発信していく予定である。また、各種事業を通じて、日本とマレーシア間の理解・交流の促進や、地域支援、観光PRに取り組んでいきたいと考えている。

(盆踊り大会参加時聴取等)

小島所長補佐(仙台市派遣)

